



# 保険会社

## 業界予測レポート（5年）

5年以内の将来における業界の成長性/リスクを評価

XENO BRAIN

2022年08月09日 作成

# 保険会社

業界定義	保険会社は、上位業界に金融を持ち、下位業界にP2P保険、オンデマンド保険、少額短期保険、損害保険、健康保険、ペット保険、生命保険を含む業界である。
主要企業	日本生命保険相互会社、株式会社かんぽ生命保険、東京海上日動火災保険株式会社、第一生命保険株式会社、明治安田生命保険相互会社、住友生命保険相互会社、三井住友海上火災保険株式会社、メットライフ生命保険株式会社、損害保険ジャパン株式会社、第一フロンティア生命保険株式会社、三井住友海上プライマリー生命保険株式会社、ソニー生命保険株式会社、アフラック生命保険株式会社、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、マニユライフ生命保険株式会社、他
国内市場規模	49兆7,291億円 (所属企業における、当業界主要サービスの国内推定売上高を全社合計し算出)

本レポートが提供する評価結果の概要紹介



本業界の市場規模成長性評価

B+

国内市場規模

49兆7,291億円

市場規模予測成長率（5年）

11.69%

解説

保険会社の国内市場規模は、現在の49兆7,291億円 から、今後5年間で11.69%成長し55兆5,412億円に達すると予測する。地震保険需要増加や海外旅行需要増加による海外旅行保険需要増加、AI利用拡大によるサイバー保険需要増加の影響が大きいと予測する。市場環境の変化をカテゴリー別に見ると、社会トレンドによる影響が大きいと予測する。当業界の企業については、日本生命保険、三井住友海上火災保険、かんぽ生命保険が比較的高い成長性と予測され、東京海上日動火災保険はともに低い成長性と予測する。



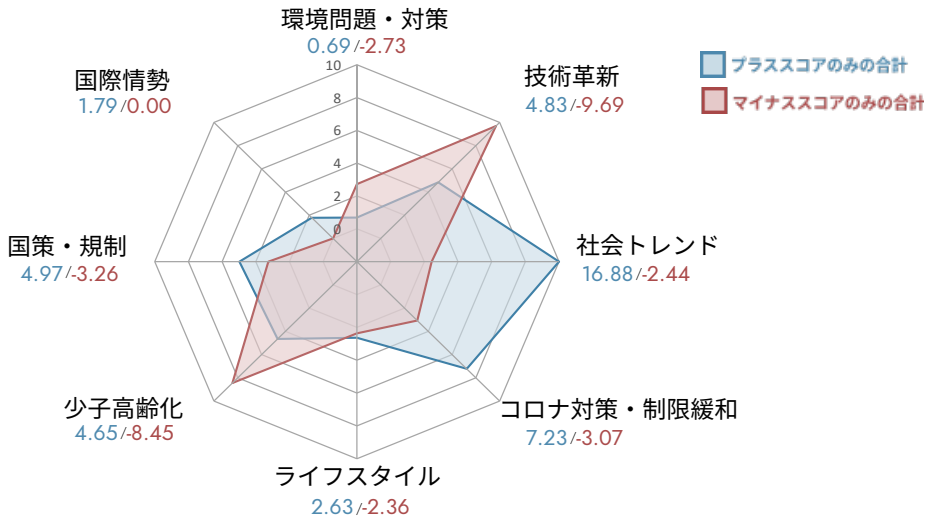
本業界に関連する今後成長/衰退する製品・サービス（上位5個）

今後成長/衰退する製品・サービス	業績への影響	主な影響シナリオ
地震保険	6.92%	地震保険需要増加
自動車保険	-6.81%	バス高速輸送システム利用拡大→自動車需要減少→自動車保険需要減少
海外旅行保険	5.74%	海外旅行需要増加→海外旅行保険需要増加
サイバー保険	4.82%	AI利用拡大→AI開発環境需要増加→サイバーセキュリティ需要増加→サイバー保険需要増加
生命保険	3.82%	地震対策需要増加→生命保険需要増加

⇒ 詳細は16ページへ



本業界に今後生じる重要な市場環境の変化

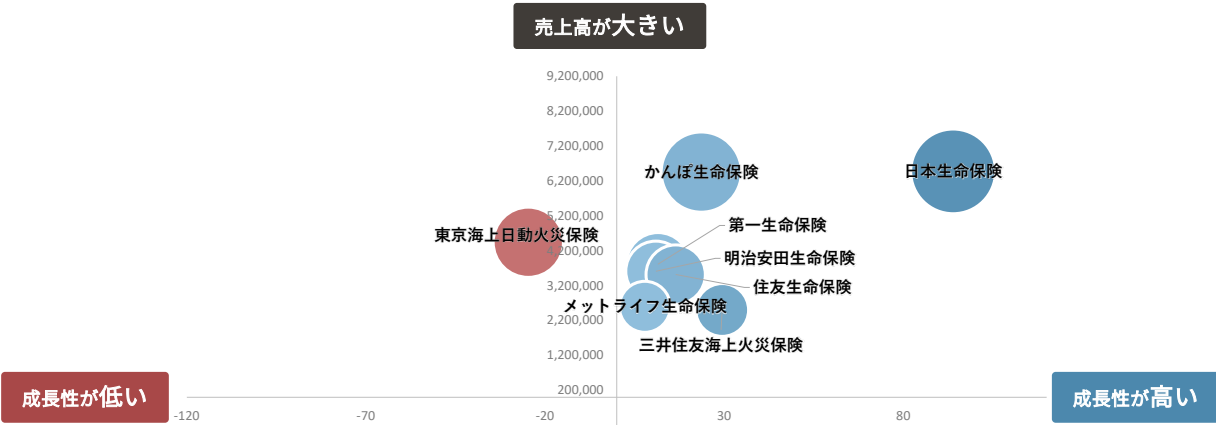


⇒ 詳細は11ページへ



業界プレイヤーのポジショニング

保険会社（全 97社）



⇒ 詳細は6ページへ



# 保険会社

## 市場規模成長性評価

現在の国内市場規模

49兆7,291億円

市場規模成長性評価

総合評価

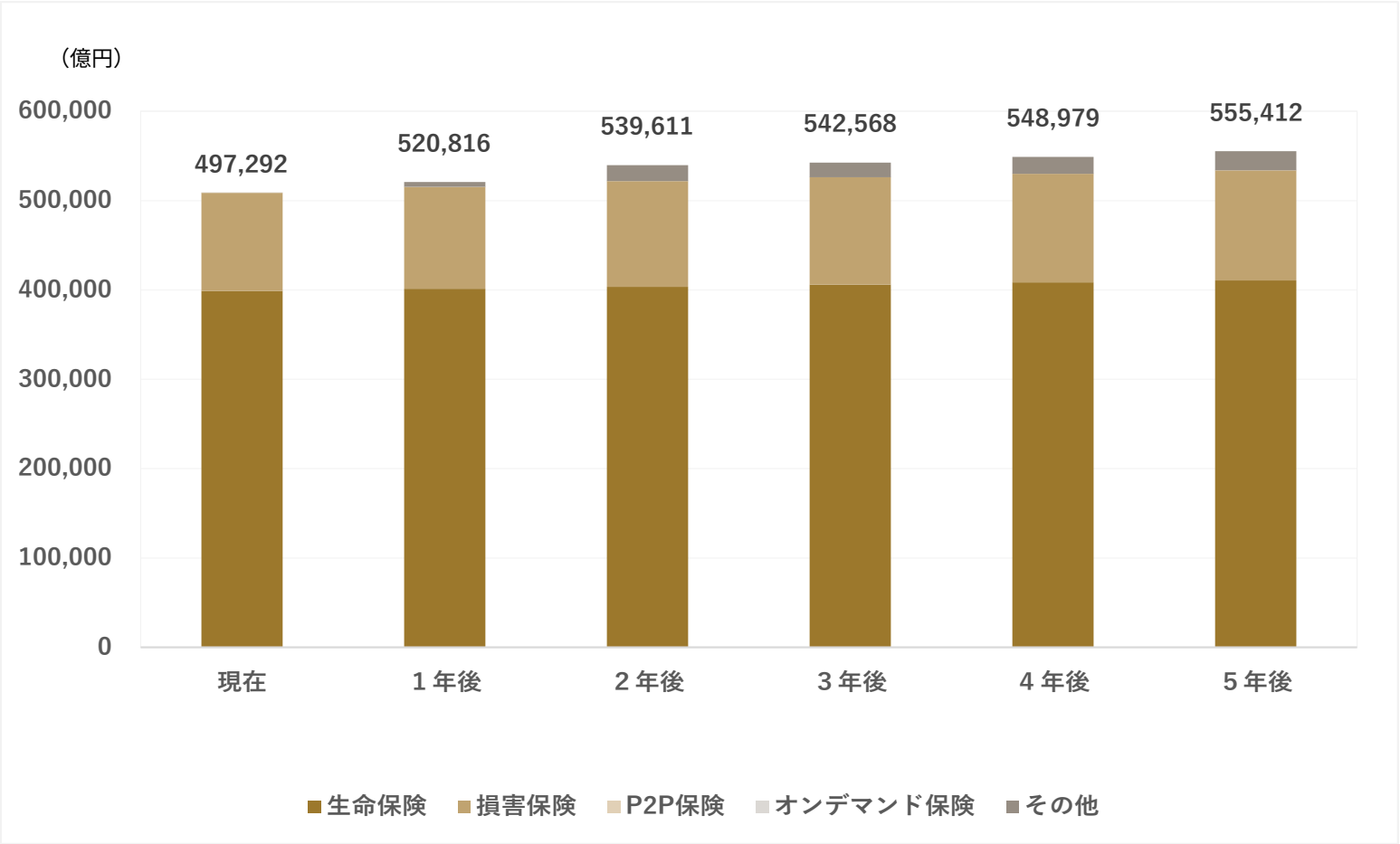
B+

市場規模予測成長率（5年）

11.69%

解説

保険会社の国内市場規模は、現在の49兆7,291億円 から、今後5年間で11.69%成長し55兆5,412億円に達すると予測する。成長率を内訳別に見ると、損害保険（12.42%）と生命保険（2.96%）、P2P保険（4.36%）の成長が寄与し、全体として11.69%の成長と予測する。また、時系列で見ると、1年後、2年後の成長が比較的大きいと予測する。



※ 保険会社の市場規模予測成長率は、現在の市場規模金額49兆7,291億円を元に、営業利益予測成長率を43.17%、営業利益率を17.05%、変動費率を37.02%として計算しています。



# 保険会社

## 業界プレイヤーのポジショニング

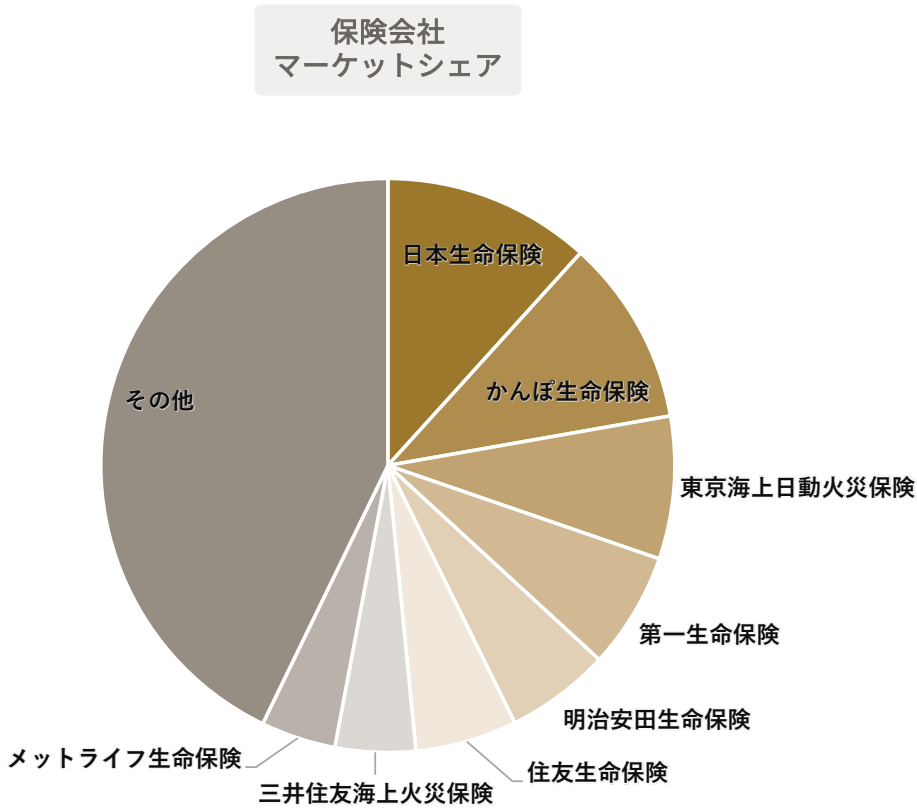


国内マーケットシェア

表の見方について

保険会社

当業界は保険を主要サービスとして持つ企業群であり、国内市場の主要プレイヤーには日本生命保険やかんぽ生命保険、東京海上日動火災保険等がある。



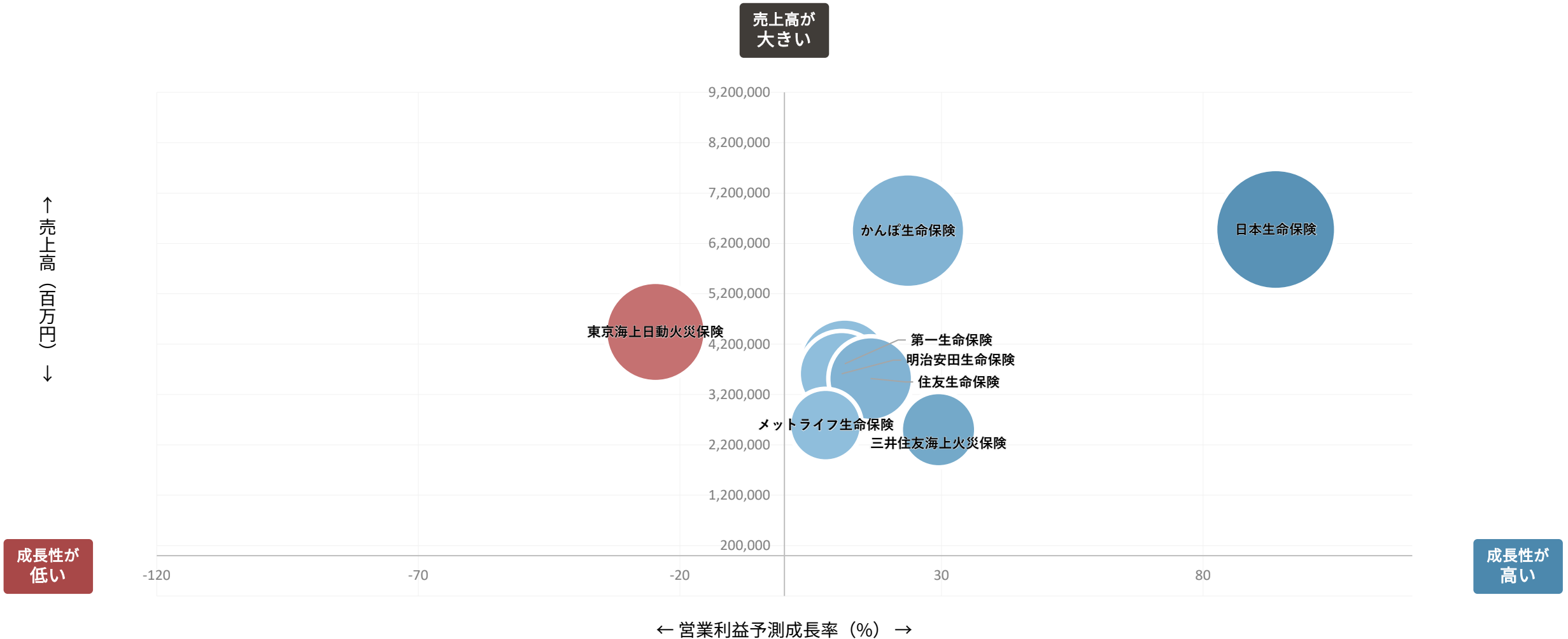
マーケットシェア 順位	保険会社業界 国内マーケットシェア 上位企業8社	A÷業界全企業 におけるAの合計 ×100 (%)	A B×C×D	算出用基礎データ		
				B	C	D
				国内保険売 上高 (百万 円) (推定)	売上高 (百万円) (※)	国内売上高 構成比率 (推定)
1	日本生命保険	11.72%				
2	かんぽ生命保険	10.51%				
3	東京海上日動火災保険	8.04%				
4	第一生命保険	6.55%				
5	明治安田生命保険	5.88%				
6	住友生命保険	5.73%				
7	三井住友海上火災保険	4.53%				
8	メットライフ生命保険	4.22%				
	その他	42.81%				
	合計	100.00%				

※国内市場のプレイヤーは、xenoBrain格納日本企業約40万社を母集団として抽出しています。  
※上場企業で連結財務諸表を開示している場合は連結売上高、それ以外はすべて単体の売上高で計算しています。  
※\*\*\*\*\* 未上場企業の売上高はダウンロードが制限される項目のため本レポート上では表示しておりません。xenoBrain画面上ではご確認くださいませ。

営業利益予測成長率分布

解説

保険会社業界では、マーケットシェア上位8社のうち、7社が成長すると予測され、1社が衰退すると予測する。

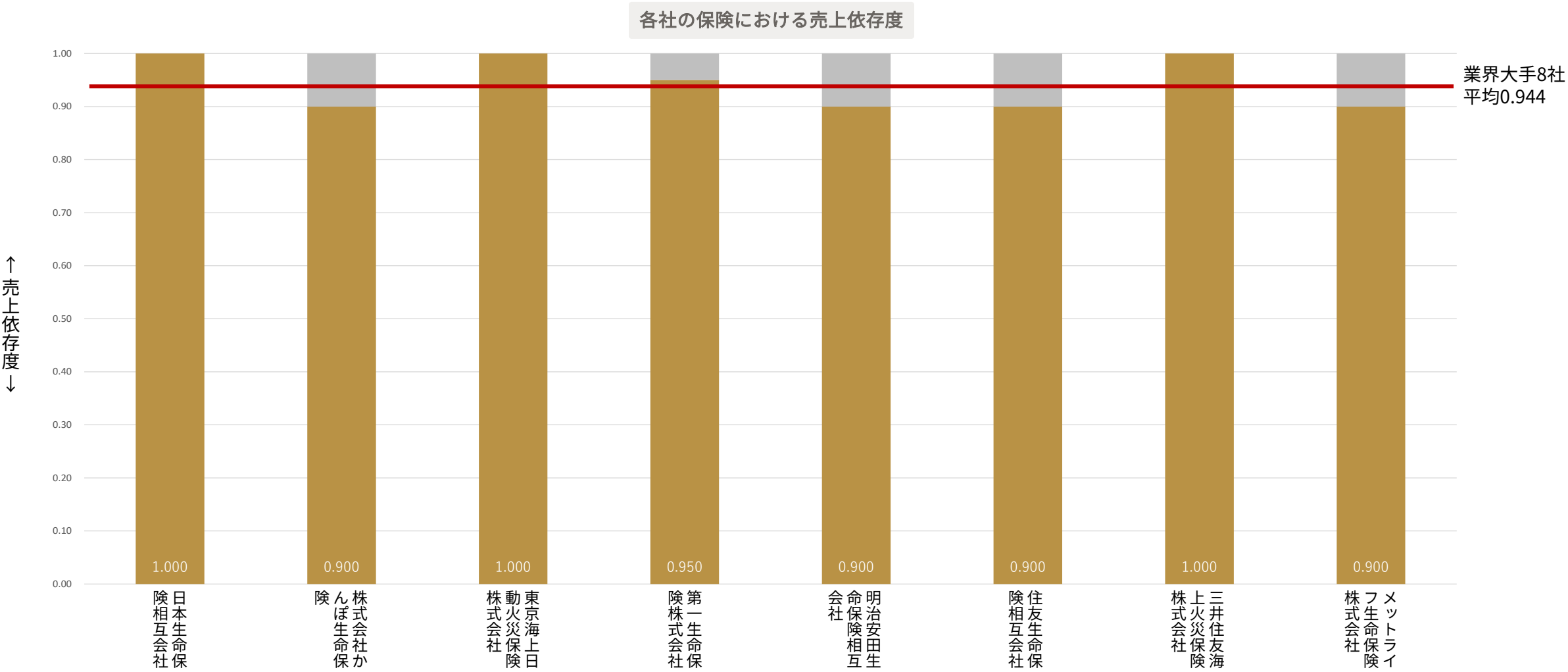


※マーケットシェアの大きい上位8社（8社に満たない場合は業界の全ての企業）を表示しています。  
※縦軸の売上高は、上場企業で連結財務諸表を開示している企業は連結売上高、それ以外の企業はすべて単体の売上高を表示しています。  
※横軸の営業利益成長率は、各企業の概ね5年程度の成長性を営業利益成長率で換算した値を表します。  
※円の大きさは、各企業の国内マーケットシェアの大きさを表します。



解説

マーケットシェア上位8社について、業界主要サービスである保険の売上依存度を表示しています。



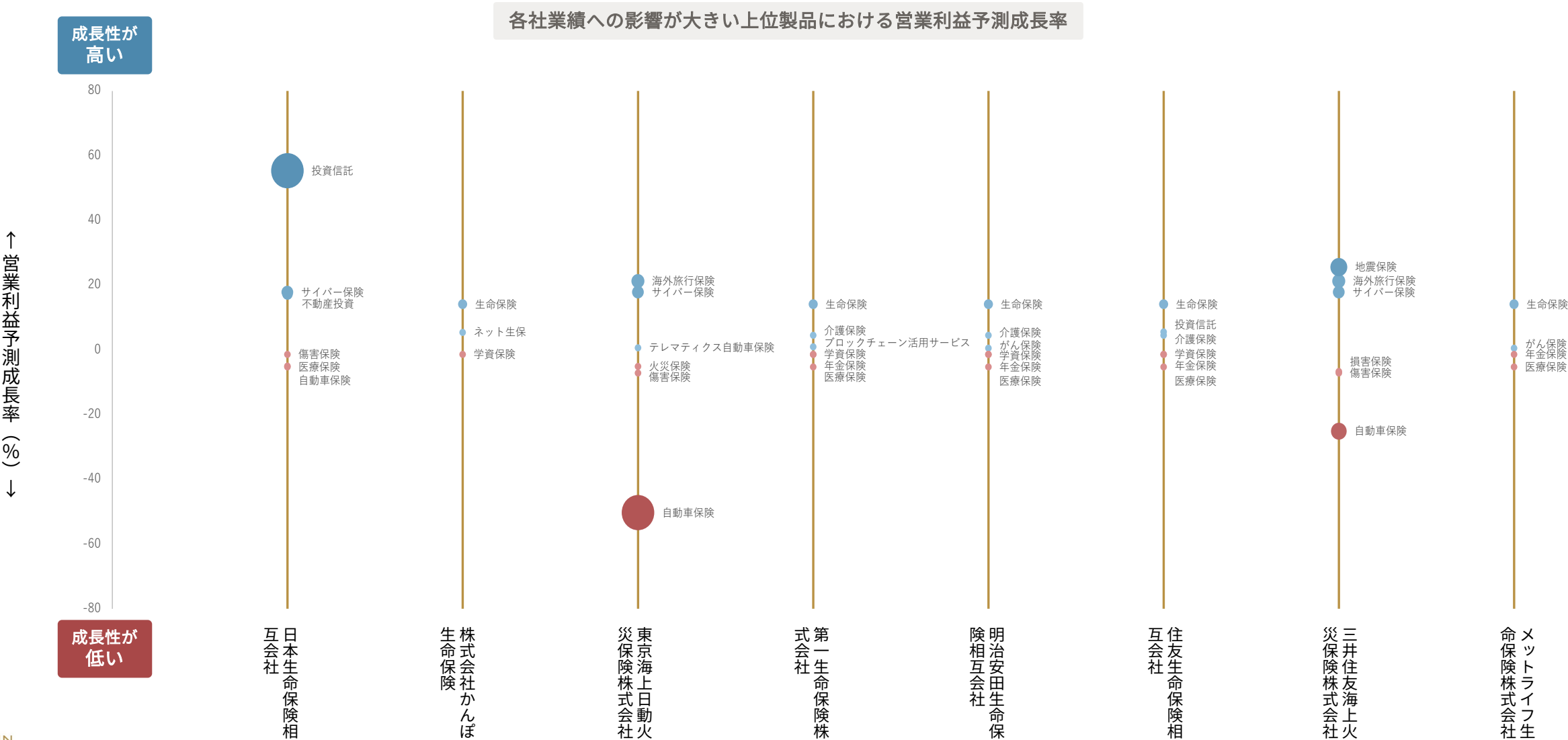
※開示資料の文章や企業HP、セグメント構成比率等から製品・サービス別推定売上高構成比率を取得し、売上依存度としてxenoBrain独自の方法により推定しています。

主要製品以外の製品・サービスでの競合比較

表の見方について

解説

マーケットシェア上位8社について、業界主要サービスである保険以外の営業利益予測成長率を表示しています。





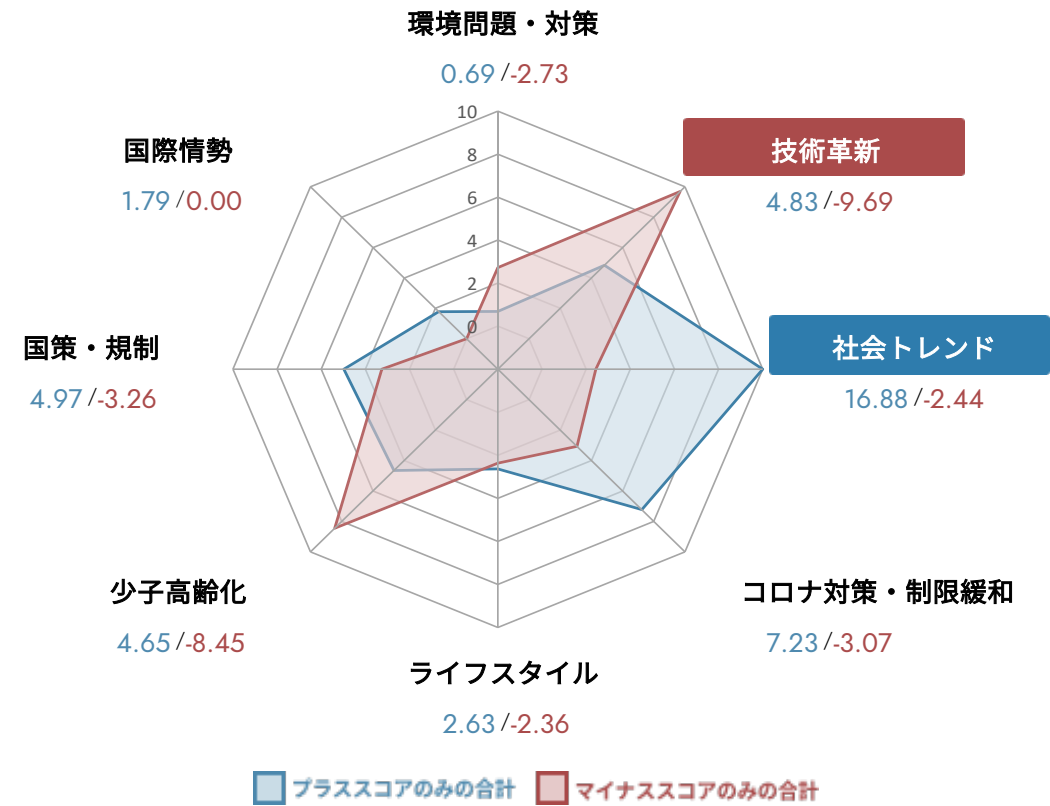
# 保険会社

今後生じる重要な市場環境の変化

カテゴリー別 レーダーチャート

解説

今後5年間で保険会社に影響する市場環境の変化を8つのカテゴリーに分類すると、プラス要因としては社会トレンド、一方マイナス要因としては技術革新の影響が大きいと予測する。プラス要因である社会トレンドの具体的な要因は、地震対策需要増加や地震保険需要増加、単身世帯数増加と予測する。マイナス要因である技術革新の具体的な要因は、レベル4自動運転利用拡大や自動運転需要増加、VR旅行利用者数増加と予測する。



社会トレンド

市場の成長にポジティブな影響が大きい中長期シナリオ トップ5

中長期シナリオ	スコア	影響経路（複数ある場合は最も影響が大きい経路）
地震対策需要増加	9.04%	地震対策需要増加→損害保険需要増加
地震保険需要増加	6.09%	地震保険需要増加
単身世帯数増加	0.97%	単身世帯数増加→住宅需要増加→建設需要増加→火災保険需要増加
BPOサービス需要増加	0.24%	BPOサービス需要増加→サイバーセキュリティ需要増加→サイバー保険需要増加
がん患者数増加	0.24%	がん患者数増加→がん保険需要増加

技術革新

市場の成長にネガティブな影響が大きい中長期シナリオ トップ5

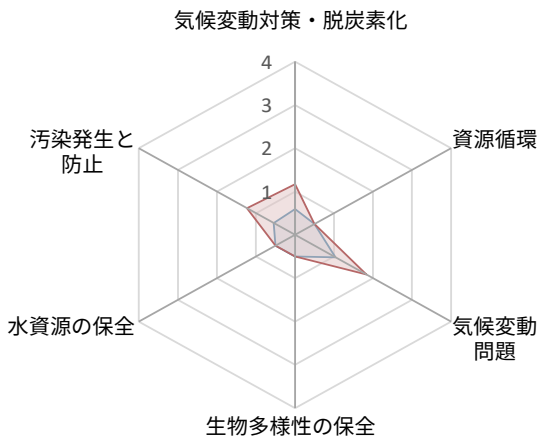
中長期シナリオ	スコア	影響経路（複数ある場合は最も影響が大きい経路）
レベル4自動運転利用拡大	-3.21%	レベル4自動運転利用拡大（レベル3以前発生シナリオ除く）→テレマティクス自動車保険需要減少
自動運転需要増加	-1.75%	自動運転需要増加→交通事故件数減少→テレマティクス需要減少→テレマティクス自動車保険需要減少
VR旅行利用者数増加	-1.22%	VR旅行利用者数増加→海外旅行需要減少→海外旅行保険需要減少
バス高速輸送システム利用拡大	-1.22%	バス高速輸送システム利用拡大→自動車需要減少→自動車保険需要減少
先進運転支援システム需要増加	-0.44%	先進運転支援システム需要増加→交通事故件数減少→テレマティクス需要減少→テレマティクス自動車保険需要減少

# サブカテゴリー別総合評価

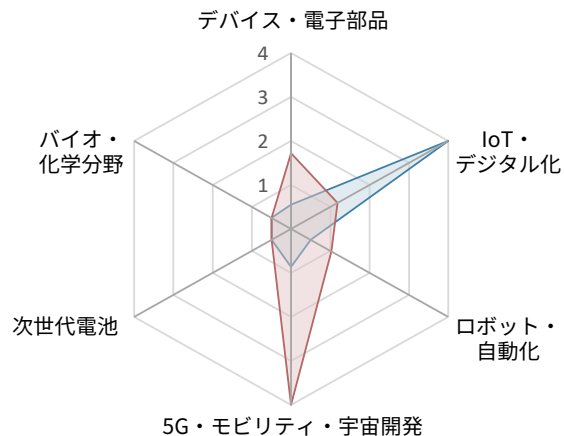
表の見方について [📄](#)

前ページの各カテゴリーについて、さらに詳細に分類したサブカテゴリー別に市場環境の変化からの影響を予測する。

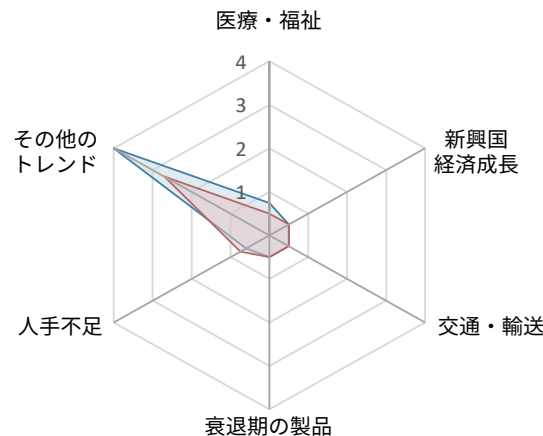
## 環境問題・対策



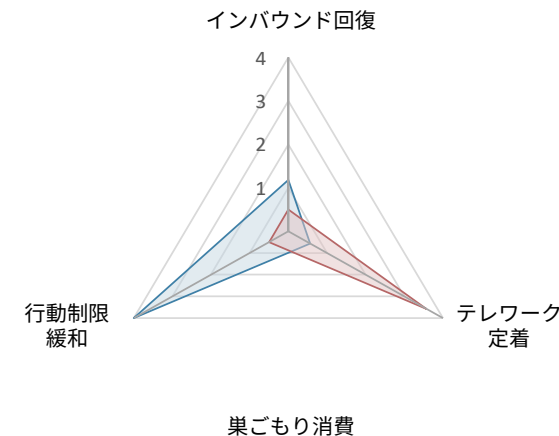
## 技術革新



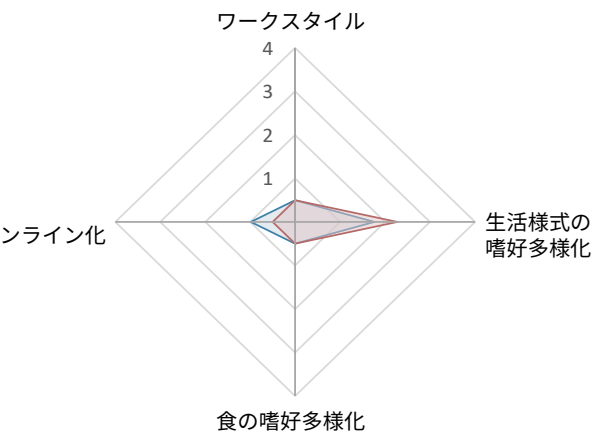
## 社会トレンド



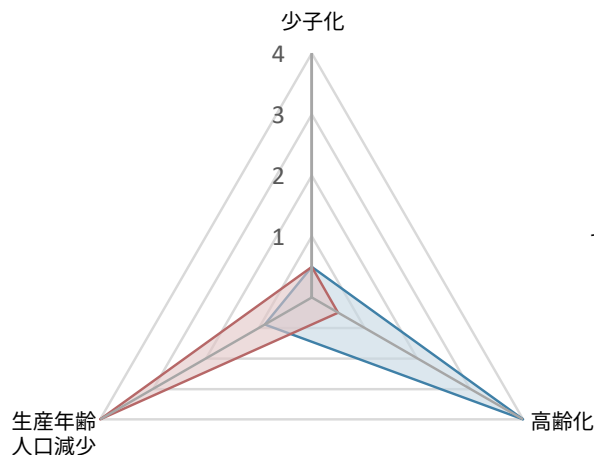
## コロナ対策・制限緩和



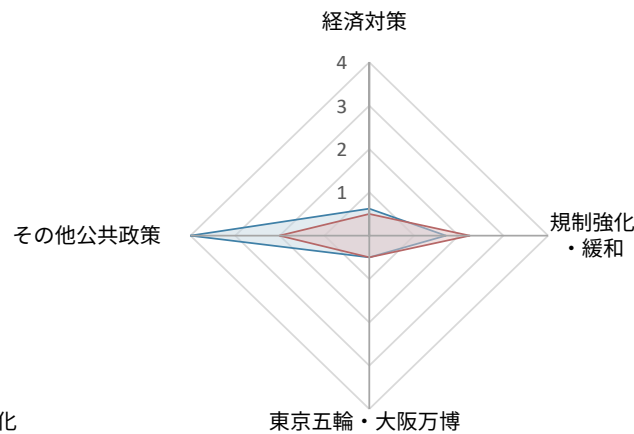
## ライフスタイル



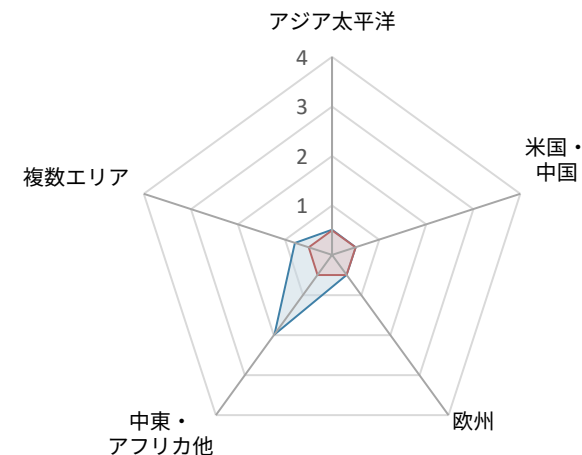
## 少子高齢化



## 国策・規制



## 国際情勢



サブカテゴリー別総合評価
 主要シナリオ分析

表の見方について

カテゴリー	カテゴリー毎の市場規模予測成長率	サブカテゴリー	サブカテゴリー毎の市場規模予測成長率			主要影響経路
環境問題・対策	-2.04%	気候変動対策・脱炭素化	-0.57%			エネルギー供給構造高度化法推進(-0.05)、ZEH利用拡大(-0.05)、自動車メーカーSDGs進展(-0.09)、脱炭素化進展(-0.24)、EST（環境的に持続可能な交通）進展(-0.24)
		汚染発生と防止	-0.68%			ダイオキシン類対策進展(-0.00)、ダイオキシン類発生(0.05)、光化学スモッグ発生(-0.24)、VOC（揮発性有機化合物）対策進展(-0.24)、PM2.5対策進展(-0.24)
		水資源の保全	-	-		-
		気候変動問題	-0.79%			平均気温2度上昇シナリオ(-0.00)、平均気温4度上昇シナリオ(-0.79)
		生物多様性の保全	-	-		-
		資源循環	-	-		-
国際情勢	1.79%	アジア太平洋	0.01%			日本経済回復(0.01)
		欧州	-	-		-
		中東・アフリカ他	1.48%			地政学リスク上昇(1.48)
		米国・中国	-	-		-
		複数エリア	0.29%			国際情勢複雑化(0.05)、防衛関係費予算増加(0.24)
国策・規制	1.71%	規制強化・緩和	-0.53%			自動運転車審査の規制緩和(1.22)、自動ブレーキ義務化(-1.75)
		経済対策	0.12%			困窮世帯向け給付金実施(0.12)
		国際イベント	-	-		-
		その他公共政策	2.07%			ワーケーション進展(-0.58)、防災・減災・国土強靱化投資実施(0.73)、中小企業強靱化法施行(0.73)、デジタル田園都市国家構想実現(-0.78)、新婚補助金増加(0.88)
少子高齢化	-3.80%	少子化	-	-		-
		生産年齢人口減少	-8.06%			生産年齢人口減少（日本）(-8.06)
		高齢化	4.26%			高齢者人口増加（日本）(0.36)、後期高齢者人口増加（日本）(3.90)



サブカテゴリー別総合評価
 主要シナリオ分析

表の見方について

カテゴリー	カテゴリー毎の市場規模予測成長率	サブカテゴリー	サブカテゴリー毎の市場規模予測成長率			主要影響経路
ライフスタイル	0.27%	ワークスタイルの変化	0.30%	<div></div>		外国人労働者人口増加(0.01)、共働き世帯増加(0.24)、働き方改革推進(-0.58)、副業従事者数増加(0.63)
		オンライン化	0.49%	<div></div>		キャッシュレス決済利用拡大(0.24)、EC利用拡大(0.24)
		食の嗜好多様化	-	<div></div>		-
		生活様式の嗜好多様化	-0.51%	<div></div>		電子たばこ需要増加(-0.01)、都市化進展(0.10)、地方移住人数増加(0.14)、二地域居住進展(0.88)、晩婚化進行(-1.62)
コロナ対策・制限緩和	4.16%	テレワーク定着	-3.01%	<div></div>		テレワーク需要増加(-3.01)
		インバウンド回復	0.68%	<div></div>		インバウンド需要増加(0.68)
		行動制限緩和	6.48%	<div></div>		外出自粛緩和(0.39)、海外旅行需要増加(6.09)
社会トレンド	14.45%	医療・福祉	0.24%	<div></div>		がん患者数増加(0.24)
		交通・輸送	-	<div></div>		-
		衰退期の製品	-	<div></div>		-
		新興国経済成長	-	<div></div>		-
		人手不足	-0.15%	<div></div>		物流業界人手不足(0.05)、建設業界人手不足(-0.19)
		その他トレンド	14.35%	<div></div>		住宅市場競争激化(-0.49)、単身世帯数増加(0.97)、若年層の車離れ進行(-1.22)、地震保険需要増加(6.09)、地震対策需要増加(9.04)
技術革新	-4.85%	デバイス・電子部品	-1.17%	<div></div>		スマートフォン需要増加(0.05)、VR旅行利用者数増加(-1.22)
		IoT・デジタル化	3.74%	<div></div>		スマートシティ推進(-0.34)、サイバー攻撃リスク上昇(0.49)、インシュアテック需要増加(0.49)、Fi nTech進展(0.73)、AI 利用拡大(1.22)
		5G・モビリティ・宇宙開発	-6.90%	<div></div>		5Gサービス利用拡大(-0.23)、先進運転支援システム需要増加(-0.44)、バス高速輸送システム利用拡大(-1.22)、自動運転需要増加(-1.75)、レベル4自動運転利用拡大(レベル3以前発生シナリオ除く)(-3.21)
		ロボット・自動化	-0.52%	<div></div>		RPA需要増加(-0.10)、宅配ロボット需要増加(-0.43)
		バイオ・化学分野	-	<div></div>		-
		次世代電池	-	<div></div>		-
総合評価			11.64%	<div></div>		



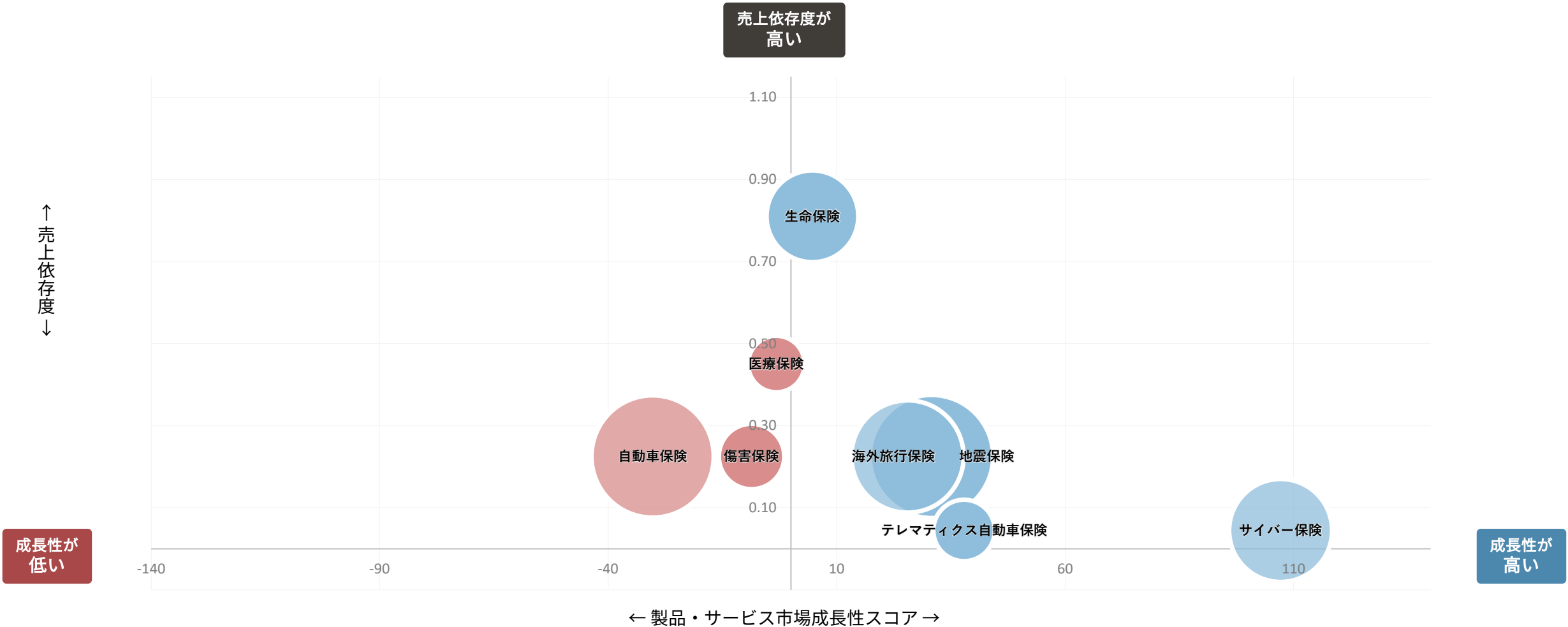
# 保険会社

本業界に関連する今後成長/衰退する製品・サービス（上位8個）

業界関連製品・サービスの成長性分布

解説

今後5年間で当業界（保険会社）の業績に最も影響のあるサービスは地震保険であり、市場が拡大し業績へプラスの影響があると予測する。その他の業績へプラスの影響があるサービスは海外旅行保険やサイバー保険と予測する。一方市場が縮小し、業績へマイナスの影響があるサービスには自動車保険や傷害保険、医療保険があると予測する。



※縦軸：開示資料の文章や企業HP、セグメント構成比率等を独自のアルゴリズムで解析し、製品・サービス別売上高構成比率を推定した結果を、xenoBrain独自の指標である売上依存度として表示しております。  
※横軸：製品・サービス市場成長性スコアは、その製品・サービス市場が市場環境の変化により、今後5年程度でどのように成長/衰退するかを表したxenoBrain独自のスコアです。  
※円の大きさ：その製品・サービスの将来当業界にもたらすと予測する市場規模へのインパクト（売上依存度×製品・サービス市場成長性スコア）を示します。

本業界に関連する今後成長/衰退する製品・サービスについてのシナリオ分析

今後成長/衰退する製品・サービス	製品・サービス別売上依存度	市場規模インパクト (市場規模予測成長率)	主要シナリオ毎の市場規模インパクト (市場規模予測成長率)			影響経路	主な影響企業
地震保険	0.225	6.92%	6.09%			地震保険需要増加	あいおいニッセイ同和損害保険、三井住友海上火災保険、損害保険ジャパン
			0.24%			地震対策需要増加→災害対策需要増加→地震保険需要増加	あいおいニッセイ同和損害保険、三井住友海上火災保険、損害保険ジャパン
			0.24%			中小企業強靱化法施行→災害対策需要増加→地震保険需要増加	あいおいニッセイ同和損害保険、三井住友海上火災保険、損害保険ジャパン
自動車保険	0.225	-6.81%	-1.22%			バス高速輸送システム利用拡大→自動車需要減少→自動車保険需要減少	あいおいニッセイ同和損害保険、三井住友海上火災保険、損害保険ジャパン
			-1.22%			レベル4自動運転利用拡大（レベル3以前発生シナリオ除く）→自動運転ライドシェアサービス需要増加→自動車需要減少→自動車保険需要減少	あいおいニッセイ同和損害保険、三井住友海上火災保険、損害保険ジャパン
			-1.22%			若年層の車離れ進行→自動車需要減少→自動車保険需要減少	あいおいニッセイ同和損害保険、三井住友海上火災保険、損害保険ジャパン
海外旅行保険	0.225	5.74%	6.09%			海外旅行需要増加→海外旅行保険需要増加	あいおいニッセイ同和損害保険、三井住友海上火災保険、損害保険ジャパン
			-1.22%			VR旅行利用者数増加→海外旅行需要減少→海外旅行保険需要減少	あいおいニッセイ同和損害保険、三井住友海上火災保険、損害保険ジャパン
			0.36%			高齢者人口増加（日本）→シニアライフ市場拡大→海外旅行需要増加→海外旅行保険需要増加	あいおいニッセイ同和損害保険、三井住友海上火災保険、損害保険ジャパン
サイバー保険	0.045	4.82%	1.22%			AI 利用拡大→AI 開発環境需要増加→サイバーセキュリティ需要増加→サイバー保険需要増加	あいおいニッセイ同和損害保険、三井住友海上火災保険、損害保険ジャパン
			0.24%			キャッシュレス決済需要増加→サイバーセキュリティ需要増加→サイバー保険需要増加	あいおいニッセイ同和損害保険、三井住友海上火災保険、損害保険ジャパン
			0.24%			キャッシュレス決済利用拡大→キャッシュレス決済需要増加→サイバーセキュリティ需要増加→サイバー保険需要増加	あいおいニッセイ同和損害保険、三井住友海上火災保険、損害保険ジャパン
生命保険	0.810	3.82%	4.39%			地震対策需要増加→生命保険需要増加	第一生命保険、三井住友海上プライマリー生命保険、明治安田生命保険
			-1.10%			晩婚化進行→若年人口減少→生命保険需要減少	第一生命保険、三井住友海上プライマリー生命保険、明治安田生命保険
			0.88%			地政学リスク上昇→ユーロ相場下落→旅行需要増加→生命保険需要増加	第一生命保険、三井住友海上プライマリー生命保険、明治安田生命保険
傷害保険	0.225	-1.94%	-1.94%			生産年齢人口減少（日本）→傷害保険需要減少	あいおいニッセイ同和損害保険、三井住友海上火災保険、損害保険ジャパン
			-			-	-
			-			-	-
テレマティクス自動車保険	0.045	1.71%	1.22%			自動運転車審査の規制緩和→自動運転投資拡大→テレマティクス自動車保険需要増加	あいおいニッセイ同和損害保険、三井住友海上火災保険、東京海上日動火災保険
			0.24%			IoT市場拡大→テレマティクス需要増加→テレマティクス自動車保険需要増加	あいおいニッセイ同和損害保険、三井住友海上火災保険、東京海上日動火災保険
			0.24%			インシュアテック需要増加→テレマティクス自動車保険需要増加	あいおいニッセイ同和損害保険、三井住友海上火災保険、東京海上日動火災保険
医療保険	0.450	-1.44%	-3.87%			生産年齢人口減少（日本）→医療保険需要減少	第一生命保険、明治安田生命保険、ソニー生命保険
			2.44%			後期高齢者人口増加（日本）→認知症患者数増加→医療保険需要増加	第一生命保険、明治安田生命保険、ソニー生命保険
			-			-	-

※当業界の製品・サービスポートフォリオのうち、今後市場を成長/減少させる製品・サービスをインパクトの大きさ順上位8個（8個ない場合はすべて）について表示しています。  
 ※主要シナリオ毎の市場規模予測成長率と影響経路は、各製品・サービスの上位3つのみ表示しております。



# 当レポート及び各ページの見方について

# 当レポートについての説明

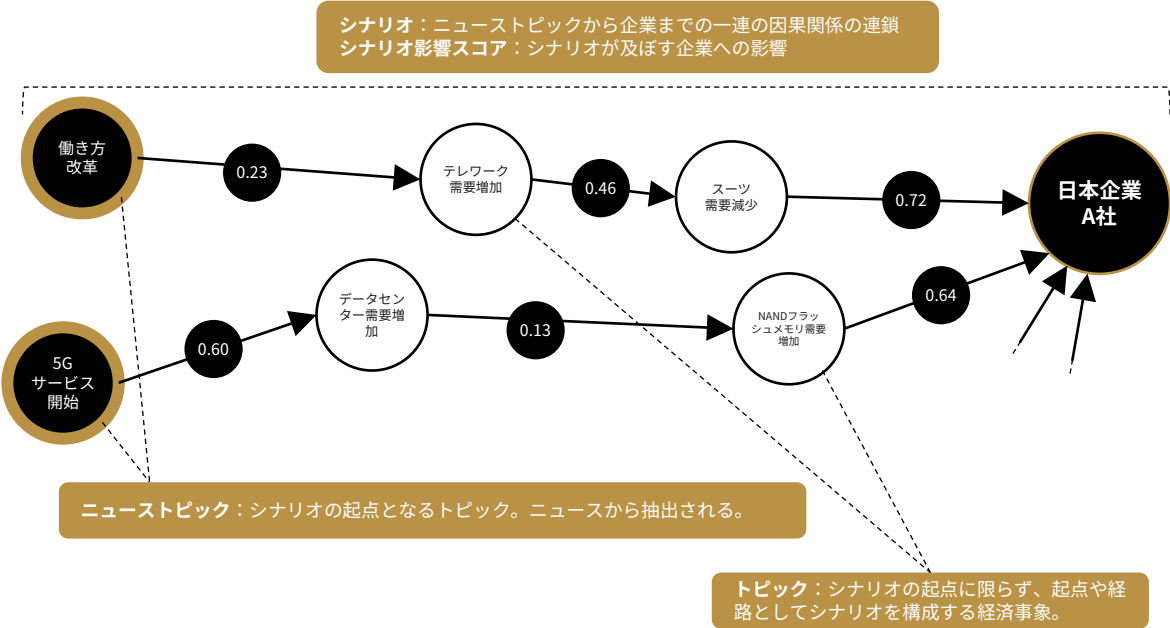
## 経済予測専門のクラウドサービス『xenoBrain』の予測プロセス概要

### 当レポートについて

当レポートは経済予測専門のクラウドサービス『xenoBrain』上で解析、計算された結果を用いて、様々な角度から当レポート対象企業を評価し、結果をまとめたレポートです。分析レポート対象企業は、国内未上場企業を含む約40万社になります。経済予測専門のクラウドサービス『xenoBrain』では、一日3,000本のニュースデータ、国内全上場企業の開示資料、帝国データバンク社の信用調査レポートのデータ40万社分、また数万本の統計データを、ディープラーニングを含むAI技術を用いた独自のエンジンを基に解析し、様々な種類の経済予測結果を提供しています。

### 『xenoBrain』で行っている予測のコンセプト図及び用語の説明

これらの経済予測では、経済事象間に存在する因果関係を抽出して、シナリオとして連結し、そのシナリオの影響を集計し、予測を行っています。



## 当レポートで使用しているトピック及びシナリオ

xenodata lab.社のアナリストが、xenoBrain上に存在する数万を超えるシナリオの中から、中長期的（概ね5年程度）に影響し、かつ、影響が大きいと推測されるシナリオの起点（中長期シナリオ）を選定し各企業への影響を算出しております。利用したニューストピックやシナリオの概要は以下になります。

本レポート集計対象総シナリオ数 122,242,491 個

中長期シナリオ数	6,482 個	集計対象エリア数	40 エリア
カテゴリ別		集計対象エリア	
環境問題・対策	1,395		
国際情勢	229	日本 / 米国 / 中国 / 豪州 / 欧州 / 中東 / 英国 / ブラジル / インド / アフガニスタン / イタリア / イラン / インドネシア / カタール / カンボジア / ケニア / シンガポール / スリランカ / タイ / ネパール / バングラデシュ / パキスタン / パプアニューギニア / フィリピン / フランス / ブルネイ / ブータン / ベトナム / マレーシア / ミャンマー / モルディブ / モンゴル / ラオス / ロシア / 中東 / 北朝鮮 / 南アフリカ / 東ティモール / 東南アジア / 韓国 / 香港	
国策・規制	224		
少子高齢化	72		
ライフスタイル	1,056		
コロナ対策・制限緩和	104		
社会トレンド	1,207		
技術革新	2,195		





# 各ページの見方について

## 今後成長/衰退する製品・サービス（上位8個）ページについて

### 表の項目について

#### 『今後成長/衰退する製品・サービス』

『今後成長/衰退する製品・サービス（上位8個）』はその業界マーケットシェア上位15社において5年程度の将来で製品・サービスごとに市場規模予測成長率を算出し、その中央値の大きさ順に上位8個を選定し、分析結果を表示しております。

#### 『売上依存度』

『売上依存度』は、TDB信用調査レポートや開示資料の文章、セグメント構成比率等を独自のアルゴリズムで解析し、業界所属企業各社の製品・サービス別売上高構成比率を推定した結果の中央値を、xenoBrain独自の指標として表示しております。

#### 『市場規模インパクト』

売上依存度×製品・サービス市場成長性スコアで計算し、その製品・サービスが将来その業界の市場規模に与える影響の大きさを示します。また、製品・サービス市場成長性スコア、その製品・サービス市場が市場環境の変化により、今後5年程度でどのように成長/衰退するかを表したxenoBrain独自のスコアです。

#### 『影響経路』

『影響経路』は、今後成長/衰退する製品・サービスに影響する全経路のうち、最も市場規模インパクトが大きいシナリオ上位3つについて表示しております。

#### 『主な影響企業』

『主な影響企業』は、その製品・サービスが、どの企業で取扱われているかを表します。

## 今後生じる重要な市場環境の変化ページについて

### 表の項目について

#### 『カテゴリー』

『カテゴリー』はxenodata lab.アナリストチームが中長期的に影響すると予測されたシナリオを分類することを目的として、調査・分類した、xenoBrain独自の分類となります。

#### 『カテゴリー毎の市場規模予測成長率』

業界所属企業への業績インパクトを元に算出した、カテゴリー毎に分類された中長期シナリオのみを集計した市場規模予測成長率になります。

#### 『サブカテゴリー』

『サブカテゴリー』はxenodata lab.アナリストチームが中長期的に影響すると予測されたシナリオを分類したカテゴリーを、さらに分類することを目的として、調査・分類した、xenoBrain独自の分類となります。

#### 『サブカテゴリー毎の市場規模予測成長率』

サブカテゴリー毎に分類された中長期シナリオのみを集計した市場規模予測成長率になります。

#### 『主要影響経路』

『主要影響経路』は、該当するサブカテゴリーに分類された中長期シナリオの中で、市場規模予測成長率が絶対値ベースで最も大きい中長期シナリオを表示しております。

# 各ページの見方について

## 業界プレイヤーのポジショニングページ（主要製品・サービス市場での比較）

### 表の項目について

#### 『国内マーケットシェア』

『国内マーケットシェア』は国内製品・サービス売上高を業界所属企業全社について合計し、その合計額と各社の国内製品・サービス売上高の比率により計算しております。

#### A『国内製品・サービス売上高』

『国内製品・サービス売上高』（レポート上は『国内自動車売上高』等、製品・サービス名称を代入）はxenoBrain上でその業界に所属すると推定された企業におけるその業界主要製品・サービスの売上依存度に売上高合計を掛け合わせ、さらに、その企業の推定国内売上高構成比率を掛け合わせた金額で計算しております。業界主要製品とは、自動車メーカーであれば自動車のように、その業界を構成するにあたり主要製品として扱った製品・サービスです。

#### B『売上高』

『売上高』は上場企業で連結財務諸表を開示している場合は連結売上高、それ以外はすべて単体の売上高で計算しています。

#### C『売上依存度』

『売上依存度』は、TDB信用調査レポートや開示資料の文章、セグメント構成比率等を独自のアルゴリズムで解析し、製品・サービス別売上高構成比率を推定した結果を、xenoBrain独自の指標である売上依存度を表示しております。

#### C『国内売上高構成比率』

『国内売上高構成比率』は、TDB信用調査レポートや開示資料の文章、セグメント構成比率等を独自のアルゴリズムで解析し、エリア別の売上高構成比率を推定した結果を、xenoBrain独自の指標として表示しております。

## 業界プレイヤーのポジショニングページ（グループ全体での比較）

個別の製品・サービスのマーケットシェアで比較するよりも、グループ企業全体で比較することが有用と判断された業界（主に多角化している企業やホールディングス等）については、左記の主要製品・サービス市場での比較と異なり、グループ企業全体の売上高で比較を行っております。その場合の表の補足説明を以下に記載致します。

### 表の項目について

#### 『マーケットシェア』

『マーケットシェア』は業界所属企業全社について売上高を合計し、その合計額と各社の売上高の比率により計算しております。

#### A『売上高』

『売上高』は上場企業で連結財務諸表を開示している場合は連結売上高、それ以外はすべて単体の売上高で計算しています。

## 免責事項

---

- ・本資料で提供している情報は、株式会社xenodata lab.（以下『当社』とする）が開発・運営するSaaS型AIサービス『xenoBrain』を通じて情報を抽出し、当社アナリストが加工したものであり、また『xenoBrain』は信頼できると考えるベンダーからの一次情報及び当社アナリストによるリサーチを当社独自のアルゴリズムを通じて自動で出力されるシステムです。
- ・当社及び当社アナリストは、情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任、または義務を負わないものとします。
- ・本資料は情報の提供を目的としており、特定の銘柄等の勧誘、売買の推奨、相場動向等の保証等を行うものではありません。また、将来の運用成果等を保証するものではありません。
- ・見解や評価は記載時点での判断であり、予告なしに変更されることがあります。
- ・当社は、本資料を利用したこと、または本サービスに依拠したことによる結果のいかなるものについても一切責任を負わないと共に、本資料を直接・間接的に受領するいかなる利用者に対しても法的責任を負うものではありません。また、これらの情報を営業に利用すること、第三者へ提供する目的で情報を加工、再利用および再配信した場合においても、万一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社は一切の責任を負いかねます。